

漁況情報 No.7

平成 18 年 7 月 12 日発行

岩手県水産技術センター 漁業資源部

Tel : 0193-26-7915、Fax : 0193-26-7920、E-mail : CE0012@pref.iwate.jp

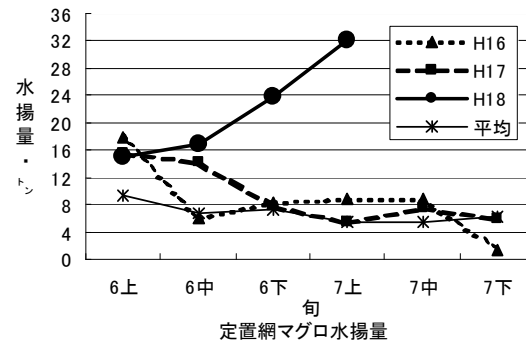
* 本報は当センターホームページ (<http://www.pref.iwate.jp/hp5507/>) に掲載しています。

<< トピックス >>

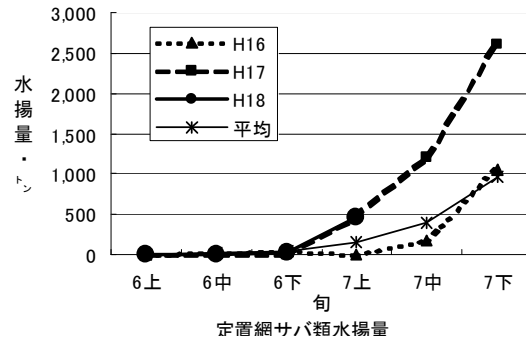
クロマグロ(定置網)の水揚げが引き続き好調です。
 サバ類(定置網)の水揚げが好調です。
 スルメイカ(いか釣り)は低調に推移しています。

1. 水揚げ状況

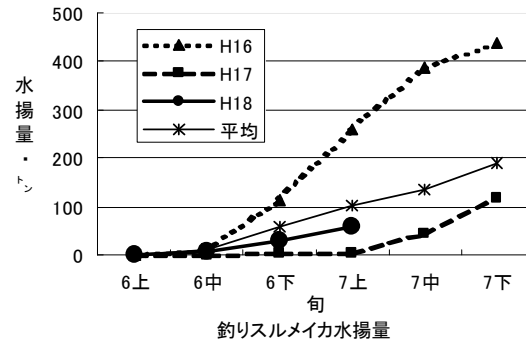
(1) クロマグロ(定置網)は大船渡を中心に水揚げがありました。7月上旬の水揚げ量は32トン(前年の5.8倍)、年累計は99トン(前年の1.8倍)でした。また、7月上旬の過去5年間の平均水揚げ量は5.4トンで、旬水揚げはその5.9倍でした。



(2) サバ類(定置網)は釜石、大船渡を中心に水揚げがありました。7月上旬の水揚げ量は464トン(前年の102%)、年累計は478トン(前年の103%)でした。また、7月上旬の過去5年間の平均水揚げ量は160トンで、旬水揚げはその2.9倍でした。



(3) スルメイカ(いか釣り)の7月上旬の水揚げ量は57トン(前年の13.4倍)、年累計は93.9トン(前年の12.0倍)であり、水揚げの少なかった前年を上回りました。しかし、7月上旬の過去5年間の平均水揚げ量は103トンで、旬水揚げはその56%でした。



*水揚げ状況は主要6港(久慈、宮古、山田、大槌、釜石、大船渡)の集計です。

2. 調査結果、その他の情報

(1) サバ類精密測定結果

7月上旬に水揚げされたサバ類(釜石魚市場、定置網)の精密測定を行いました。

体長はオスで32~33cm 主体、メスで32~34cm 主体とややメスが大きい傾向がありました(図1)。本県で水揚げされるサバ類には、マサバとゴマサバがありますが、両種は体長(尾叉長)と背びれの長さ(第1背びれ第1~第9棘基底長)の比で判別できます。体長(図2、A)に対して背びれの長さ(図2、B)が長いものがマサバ(判別指数12以上)、短いものがゴマサバ(判別指数12未満)とされています。この判別方法によると、今回測定したサバのほとんどがマサバであることがわかりました(図2、サバの図は Collette and Nauen(19831)を転載)。

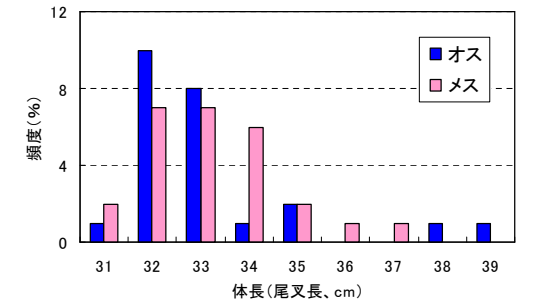


図1 サバ類体長組成

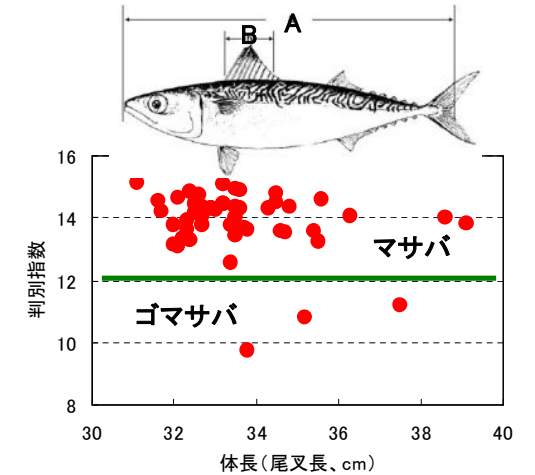


図2 マサバ・ゴマサバ判別指数

(2) ミズダコの標識放流について

当センターでは、釜石市沖の水深100~120mでカゴで漁獲したミズダコの標識放流試験を行っています。本海域では、4月以降、漁獲のない状態が続いていましたが、6月に入って4尾、7月3日の試験では急激に増加して27尾(63.5kg)が採集されました。昨年度と比較すると、6月までは少なく、7月に入って急激に大きく上回っています(図3)。採集されたミズダコは、1kg未満が全体の17%を、2kg未満が全体の53%を占めており、小型のタコが主体となっています(図4)。

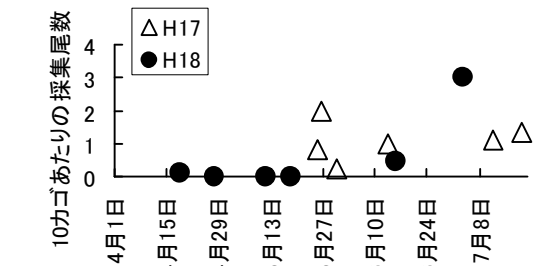


図3 ミズダコ標識放流試験結果

採集されたミズダコには、足の付け根に黄色のディスプレイタグを付けて採集地点に放流しています。標識のついたミズダコを漁獲した時には、漁獲年月日、漁獲場所、体重を当センターまでご一報頂きますようお願い致します。

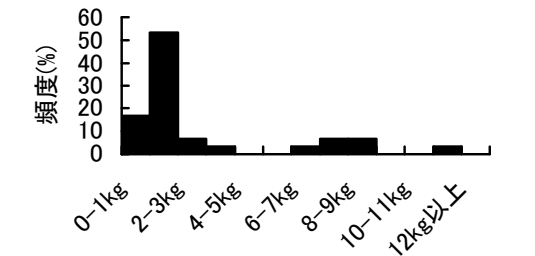


図4 ミズダコ体長組成(H18年度)

「フィッシャリィ・ネットいわて」(<http://www2.suigi.pref.iwate.jp/>)で、日別・市場別・魚種別の水揚げ状況、定地水温などを検索できますので、こちらもお活用下さい。